



2019 年度事業報告

2019 年の事業として、東京 2020 年に向かう強化体制の構築、強化事業、パラマウントチャレンジカヌーの実施、自治体との連携によるパラマウントチャレンジカヌーサポーター講習会の実施など、新しい企画や委託事業も増えました。

普及部 パラリンピックサポートセンター助成事業による拠点設備の拡大

【普及事業】

ラクスアリーナ内 Canoe Base の拡大

追加購入競技艇：バイダパラ艇 2 艇、Nelo パラ艇 2 艇、ネロ Va'a 1 艇、アナハブラ Va'a 2 艇

追加器具：エルゴマシン カヤックプロ 2 個

【普及活動】

★パラマウントチャレンジカヌーの開催

体験会（選手発掘や室内プール体験会）

年間、霞ヶ浦パラ 4 回、広島パラ、大阪パラ、山形パラ、静岡パラ、全国 200M 競漕

★サポーター講習会

B&G 全国研修会、宮城県加美町との委託事業、横芝光町サポーター講習会、

障害者カヌーについて（障害者と介助者の異なる立場の講師 2 人体制での講義とワークショップ）

今期のパラチャを行う中で、パラリンピックサポートセンターの助成により購入した競技艇パラカヌーカヤックを体験できる形にし、2020 年東京パラリンピックに向けてパラカヌー競技の認知度の向上と選手発掘を同時に行いました。また、競技艇の体験ができるパラチャとして、だれでもチャレンジしてもらい競技を知ってもらう機会となりました。

拠点である艇庫の拡大と競技艇の配置、エルゴの配置を行い、依頼された際には貸し出しを行う事で事業の収益になる事と、室内でもカヌー類似体験ができることで競技紹介に努めました。

【委託を受けた普及事業】

B&G 財団の毎年開催の指導者研修会に講師として招かれ、80 名の研修生に障がい者の

理解とサポートについて講義を行った後、フィッティングのワークショップを行いました。

会長を障害者モデルとして、沖縄の海で障害者カヌー実習を行いました。

東京都の委託事業の選手発掘事業へも近隣の会員をインストラクターとして派遣し、競技カヌーとレクレーションカヤックを体験していただきました。

地域との連携を行い、地域の障害者スポーツ指導員やカヌー関係者へサポーター講習会を行い、地域



で地域の障害者を受け入れることが出来る体制作りをスタートさせました。

サポーターとして関わっていただいた方々にも、カヌーを体験してもらいカヌーを知っていただく事を行いました。協会活動の基本となる、参加する方全員が同じ楽しさを共有できる時間を作ることが出来ました。

【広報事業】

広報活動の一環及び寄付の返礼として、引き続き T シャツを追加（カラー追加）で製作。他少しずつアイテムを追加しています。半袖のスエット、パーカー、七部シャツ、ウォーターボトル

協会冊子第 1 号の青版「カヌー楽しいよ、漕いでみようよ」は、企業や自治体への活動紹介冊子として配布し、活動理念を伝えることに活用しています。初版の 500 冊から追加で 500 冊を増刷、簡単カヌーガイド 1000 部増刷

Facebook ページを充実させ、HP のリニューアルに向けて整理を行いました。

新鮮な情報発信と、選手達に必要な情報をわかりやすく発信できるように努めました。

競技について報道関係者向けのセミナーの講師として登壇、パラネットの広報セミナー、NHK 字幕放送メディアサービスなど。

日本代表選手のメディア露出、事務局のメディア露出、取材対応など、全国各地へ色がるファンつくりのため、多くの選手にご協力いただきました。

【人材育成事業】

3月に第3回国内クラス分け養成講習会として、2年間のおさらいと新しい情報のアップグレードとして、国内クラス分け委員スキルアップ講習会を実施する計画でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止としました。（石川県小松市にて）

強化事業内で、地域トレーナーやトレーナー部会入部のトレーナーの積極的参加を促し、次世代のトレーナーとして育成する機会としました。引き続き、トレーナー部会には合宿日程を共有して頂き、積極的な参加を促進して頂きます。

【選手強化事業】

年間を通して強化合宿を主に石川県木場潟カヌー競技場で開催し、韓国との交流合宿（インチョン）、岐阜県の合宿誘致事業による岐阜県合宿、海の森競技場のプレトレーニングチャンスの期間の有効利用、テストイベント、国際大会 2 大会に選手とスタッフの派遣を行いました。

実施事業

・4月8日～5月14日 ワールドカップ事前合宿 木場潟カヌー競技場



- ・4月24日～4月30日 韓国国際交流合宿 ソウル派遣
 - ・5月17日～5月27日 ワールドカップ派遣 ポーランド
 - ・6月1日～8月14日 世界選手権事前合宿 木場潟カヌー競技場
 - ・8月17日～8月27日 世界選手権大会 ハンガリー
 - ・9月1日～9月6日 日本選手権大会 東京海の森競技場
 - ・9月9日～9月15日 テストイベント 東京海の森競技場
 - ・9月16日～18日 ICF国際クラス分けワークショップ 東京海の森競技場
 - ・9月30日～10月13日 強化合宿 木場潟カヌー競技場
 - ・10月 プレトレーニングチャンス 東京海の森競技場
 - ・11月以降、ヘッドコーチが地域へ訪問し指導を行う。
 - ・11月22日～29日 岐阜県八百津合宿
 - 3月14日、15日（延期によって3月29日に開催） 海外派遣選考記録会 木場潟カヌー競技場
 - 3月20～日～27日 第5回パラカヌーアジア選手権大会
- 新型コロナウイルス感染の影響によって中止

国内大会では、日本カヌー連盟パラ競技運営との連携を行い、日本カヌー連盟主催大会のパラ選手のエントリー管理やクラス分けについての役割を担い共同主催として大会運営を行いました。レスキュー役員、クラス分け役員は大会役員として派遣し、大会ボランティアを募り 100 名近くの方に運営のお手伝いをしていただきました。

【体制整備事業】

選手の強化と並行して、指導者やスタッフの専門性を高める研修に参加していただき全体のレベルアップと意識の向上に努めました。

トレーナー連絡会議、ドクター連絡会議、クラス分け担当会議、コーチ会議、アンチドーピング研修会、複数領域研修会、医科学研修会、

その他、組織基盤整備の為に研修会としてガバナンス研修会や日本パラリンピック委員会加盟団体会議、障がい者スポーツ協議会会議、スポーツ庁との協同コンサルテーションや強化ヒアリングなどに出席し、競技部全体の意識の向上と自己研鑽に取り組みました。

強化指定選手に、メディカルチェック、栄養指導、心理サポートなどを行い心身共にあるべき健康に配慮した強化活動を推進しています。

【人件費】



事務局員 1 名（上岡）をパラリンピックサポートセンター助成金で常勤として雇用、7 月より事務補助として週 2 回の臨時パート事務員（久保）を追加雇用。もう 1 名（吉田）が日本スポーツ振興センター競技力向上事業（強化費）助成金で常勤雇用。

【協賛企業】

スポンサー契約

シルバースポンサー SOMPO ひまわり生命

ブロンズスポンサー テスホールディングス株式会社

ブロンズスポンサー 株式会社グローセル（2020 年 1 月 4 半期分からスタート）

物品協賛 株式会社 NANGA、日本モーターボート選手会、

パラリンピックサポートセンターの基盤強化助成が 2021 年 12 月までとなり、JSC の事務局員賃金の助成金が 2021 年 3 月までとなっています。

継続した協会運営のための資金調達が急務となっていますので、2020 以降も継続した運営を行うためには、協賛していただいている企業を大切に、さらに協賛いただける企業へのアプローチを行っていかねばなりません。

東京 2020 を機に日本では障がい者スポーツに注目が集まり、競技性だけでなくスポーツを通じて共生社会への発展を目標とした社会活動がスポーツ庁の指針となっています。

全国でカヌーを楽しむ人口を増やし、同時に世界へチャレンジする選手を発掘育成することを続けるための協会事業を継続するために、2020 年度も日本障害者カヌー協会の活動を多方面に拡大する方針です。